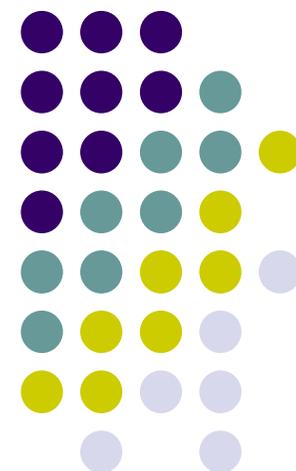


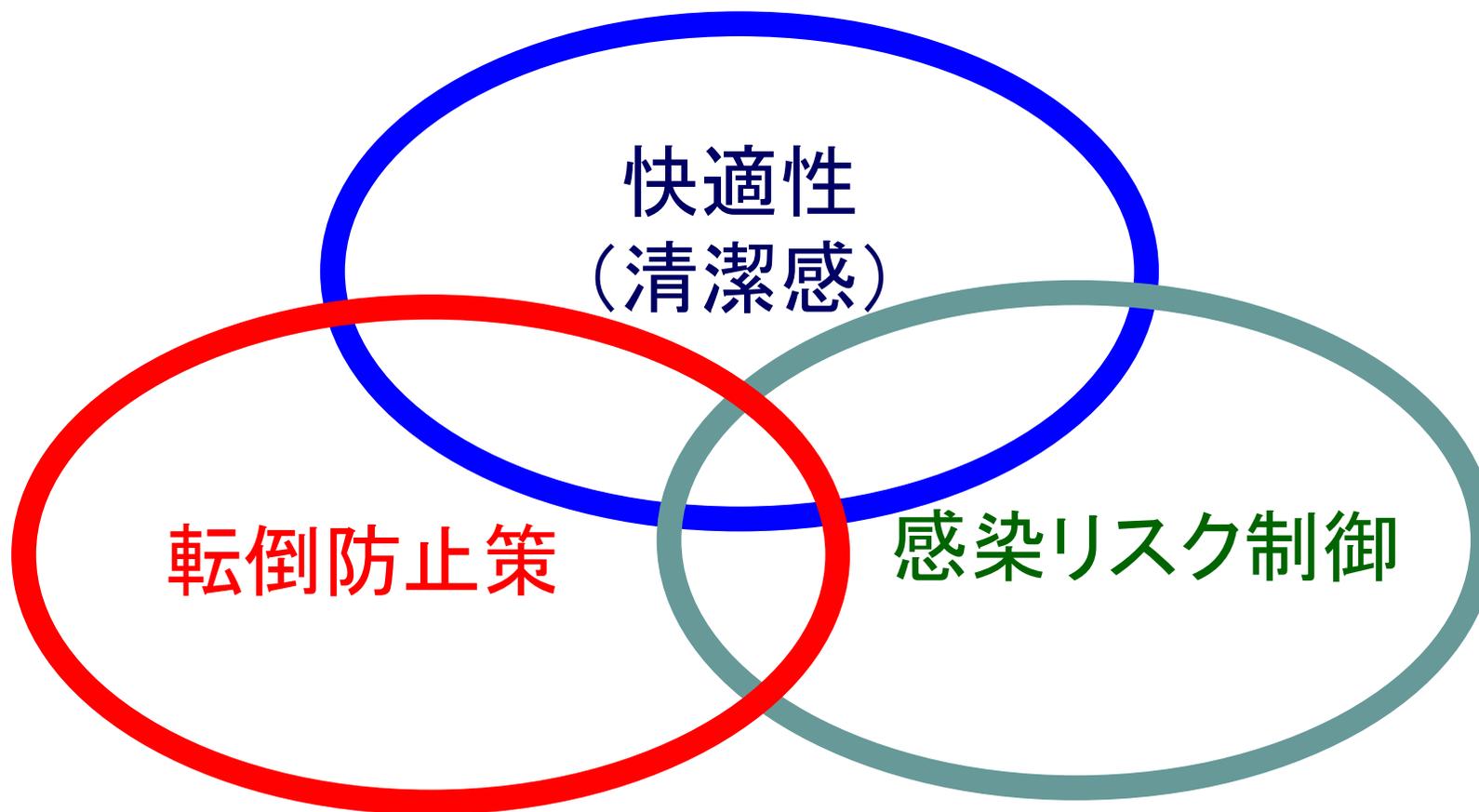
北里大学病院 共同研究 病院外来トイレの清掃マニュアル (計画編)

2010/11/17

癒しのトイレ研究会



医療施設の環境衛生に求められるもの



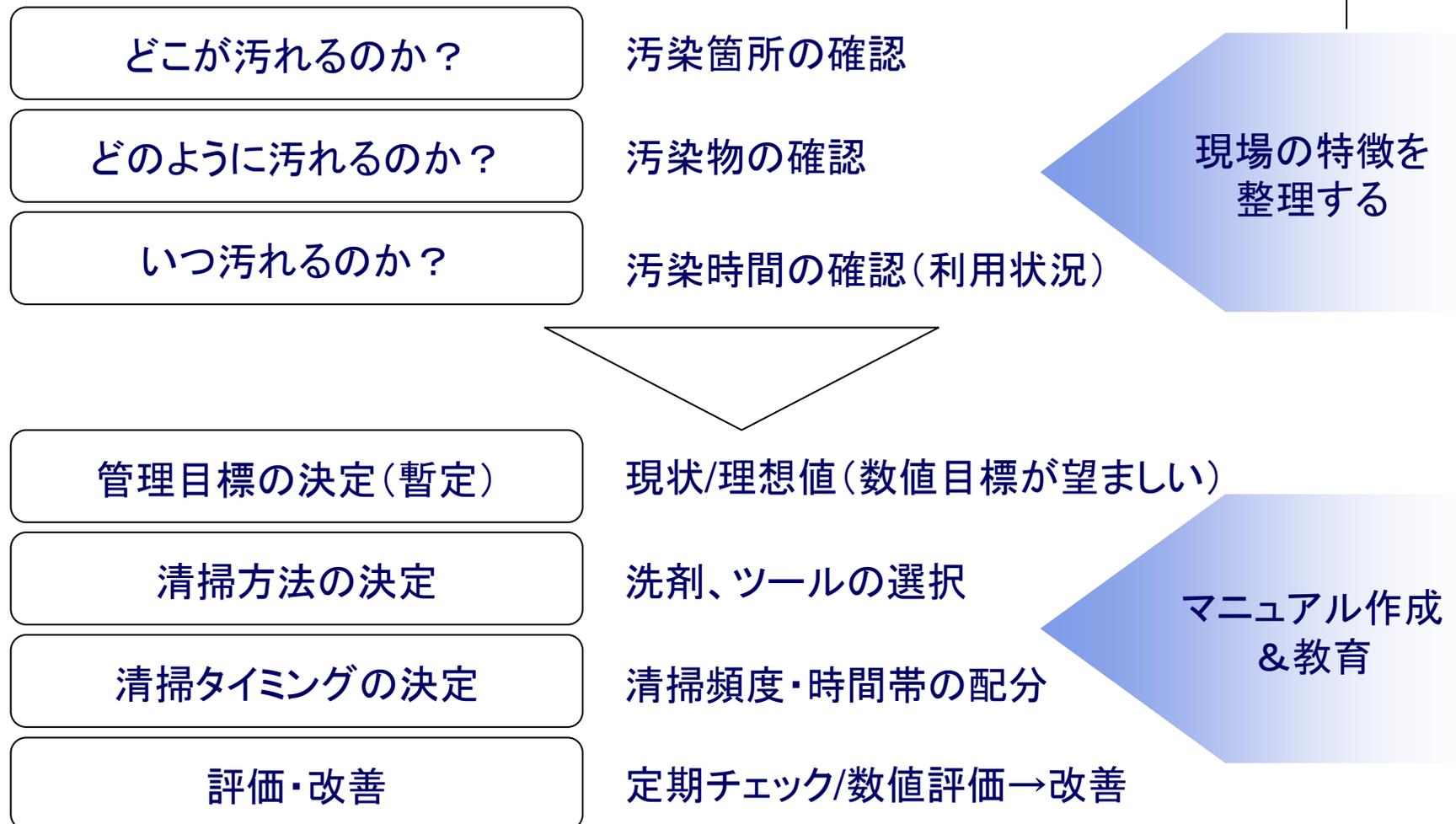


医療施設の環境衛生に特有の知識

- ● 清浄度ゾーニング
 - トイレは「汚染拡散防止エリア」
 - 汚染の発生源として扱い、物品の移動を厳禁
- ● 感染制御に関する基本知識
 - 標準予防策(血液、排泄物を取り扱う際の防御策)/感染経路別予防策
 - 手洗いの励行(自分自身が感染源にならない意識)
 - ICTとの連携
- ● マナー
 - 体力の落ちた患者様や介護者への配慮



PLAN: 清掃計画





PLAN: 管理目標の設定

<要点>

- 1) 目標は、できるだけ数値化する！
-目視の場合は、写真等で見える化を
- 2) カンペキな目標値はない！
-初回は徹底清掃後の数値を用いるとよい
- 3) 単発の結果にふり回されない！
-数値評価は「傾向」を探るための指標

数値目標に用いる指標の例 →	菌検査	ATP測定	ブラックライト
汚染物の同定 (リスク判断)	適	やや適	不適
タイムリーな判定	不適	適	やや不適
汚染範囲の把握	不適	不適	適
実施コスト	大	中	小
清掃成果の明確化	適	適	不適
習熟度の必要性	要	やや要	不要

<指標は目的別に>

- (院内感染の発生時など) 確実性が求められる場合 → 菌検査
- タイムリーな改善に結び付けるための評価 → ATP
- 作業教育など、視覚表現が効果的な場合 → ブラックライト



PLAN: 洗剤の選定

<要点>

- 1) 洗淨、除菌性能を確認する -医療施設では、殺菌データ等の確保が望ましい
- 2) 倍率、薄め方を確認する -誤った希釈は、性能不足や事故の原因となる
- 3) 素材に対する安全性を確認する -機器や操作盤の寿命を縮めない

「洗剤や除菌剤を選ぶ際の注意点」

日本では歴史的に次亜塩素酸Naや殺菌アルコールの認知度が高く、清掃にも用いられるが、洗淨力や建材や機器の損傷などの相対コストは看過されてきた。

一方米国では、CDCが環境表面の清掃には低水準消毒薬(第四級アンモニウム塩など含有のもの)でよいとし、しばしば環境菌の耐性出現が問題となる。

このような中、洗剤の選択に当たり肝心な事は、どうすれば「汚れと細菌を確実に除去できるか」である。

一つのヒントとして、EPA登録品の検討がある。米国では洗剤・殺菌剤の販売にあたって病原菌別の殺菌性能)を環境保護局(EPA)に登録するため、すなわち殺菌データが揃っている事が多い。医療施設で配慮すべき細菌・ウイルスに配慮した洗剤選択が容易なのである。

最近塩素やアルコールに偏らずとも、素材に安全で殺菌力も担保された商品も開発されつつあり、インターネット等を介した情報収集も是非お勧めしたい。



PLAN: 洗剤の選定(一般的な例)

洗剤・除菌剤	用途	例
中性洗剤 ※低水準消毒薬	●手洗い台や鏡などの環境表面 ●便器外側の拭きあげ	
トイレボールクリーナー	便器内の汚れや尿石の除去	
除菌剤	手すり、ドアノブなど、手指接触箇所の除菌仕上げ	
除菌消臭剤 (必要に応じて)	消臭(除菌)	

洗剤の選定（高性能品による集約例）



洗剤・除菌剤	用途	例
<p>除菌洗淨剤 ※EPA登録(各種除菌データ有)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●手洗い台や鏡などの環境表面、便器外側の拭きあげ ●便器内の汚れ ●手すり、ドアノブ等、手指接触箇所の除菌仕上げ 	
<p>トイレボールクリーナー (必要に応じて)</p>	<p>尿石の除去</p>	
<p>除菌消臭剤 (必要に応じて)</p>	<p>消臭(除菌)</p>	



PLAN: 道具の選定

<要点>

- 1) 清掃性能を確認する
 - 医療施設では水分コントロールしやすいことが重要
- 2) カラーリングする
 - 清掃箇所別(リスク別)に色分けした道具を準備
- 3) 耐久性を確認する
 - 使用後の洗浄・除菌による劣化が激しいとコストアップに

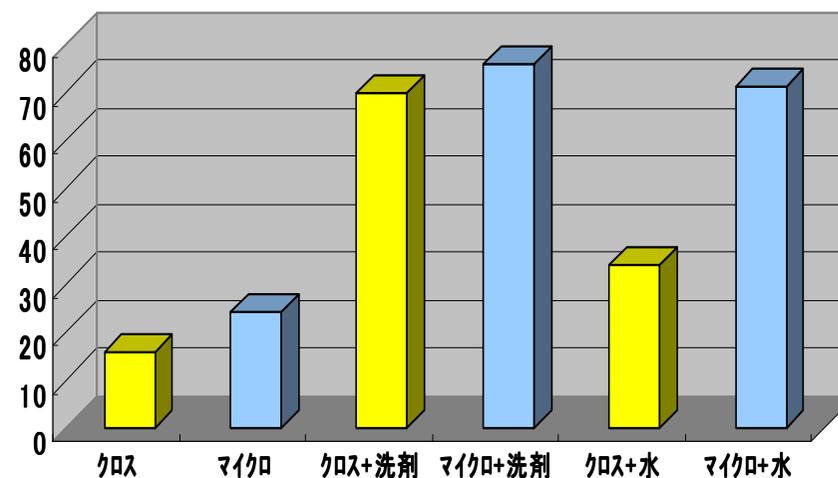
「市民権を得たマイクロファイバー」

かつての綿雑巾や糸モップにかわり、清掃にマイクロファイバーを用いるケースが増えている。

これは、高い清掃性(右グラフ参照)のほかに、一旦捉えた汚れを再付着しにくい、洗濯による洗浄効率がよいなどの利点が評価されたものだ。ゾーニングや使い分けに便利なカラーバリエーションも、医療施設の清掃に向く点だろう。

ただしマイクロファイバーは、塩素殺菌すると劣化が避けられず交換コストがかさむ。高温洗浄/完全乾燥の設備がない現場では、予め塩素に対する耐久性確認は必須である。洗浄委託(外注)サービスもあるので、適宜利用したい。

洗浄力(平滑面)



綿クロスとマイクロファイバーの洗浄力比較

乾拭き/洗剤拭き/水拭きともマイクロファイバーの性能が勝る

PLAN: 道具の選定(マイクロファイバー 活用例)

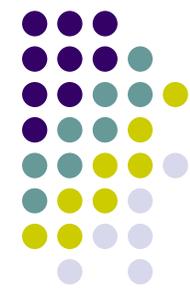


道具	用途	例
清掃カート	清掃用具の収納、 移動	<p>※クローズドシステム、 ※カラーリング対応</p> 
モップ	床面の拭きあげ	   <p>※次亜殺菌対応タイプもあります</p>
クロス	環境表面の拭きあげ	<p>※カラーリング対応 ※次亜殺菌対応タイプもあります</p> 
高所用 (必要に応じて)	環境表面の拭きあげ	

理想的なマイクロファイバー管理 (高温殺菌洗淨のサイクル)



●清掃道具を清潔に管理する上で、高温洗淨ができない場合は、塩素殺菌と乾燥が重要になります。

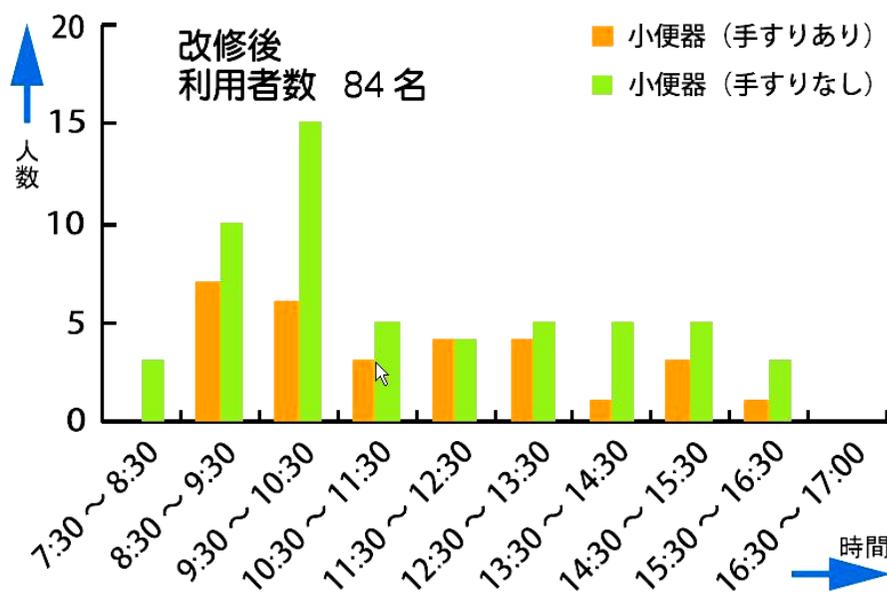
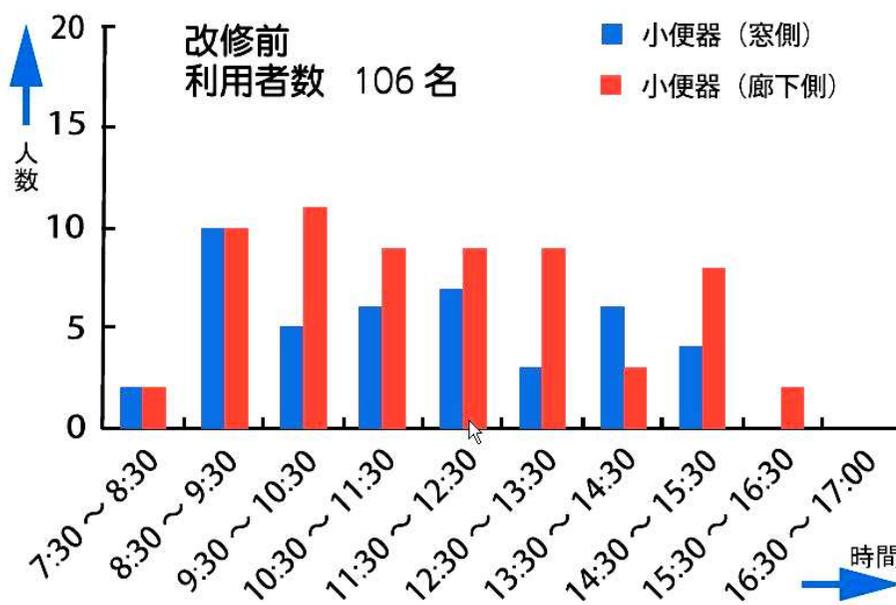


PLAN: 清掃タイミングの決定

<要点>

- 1) 自施設トイレの利用状況を把握する！ -限られた清掃員を効率的に配置

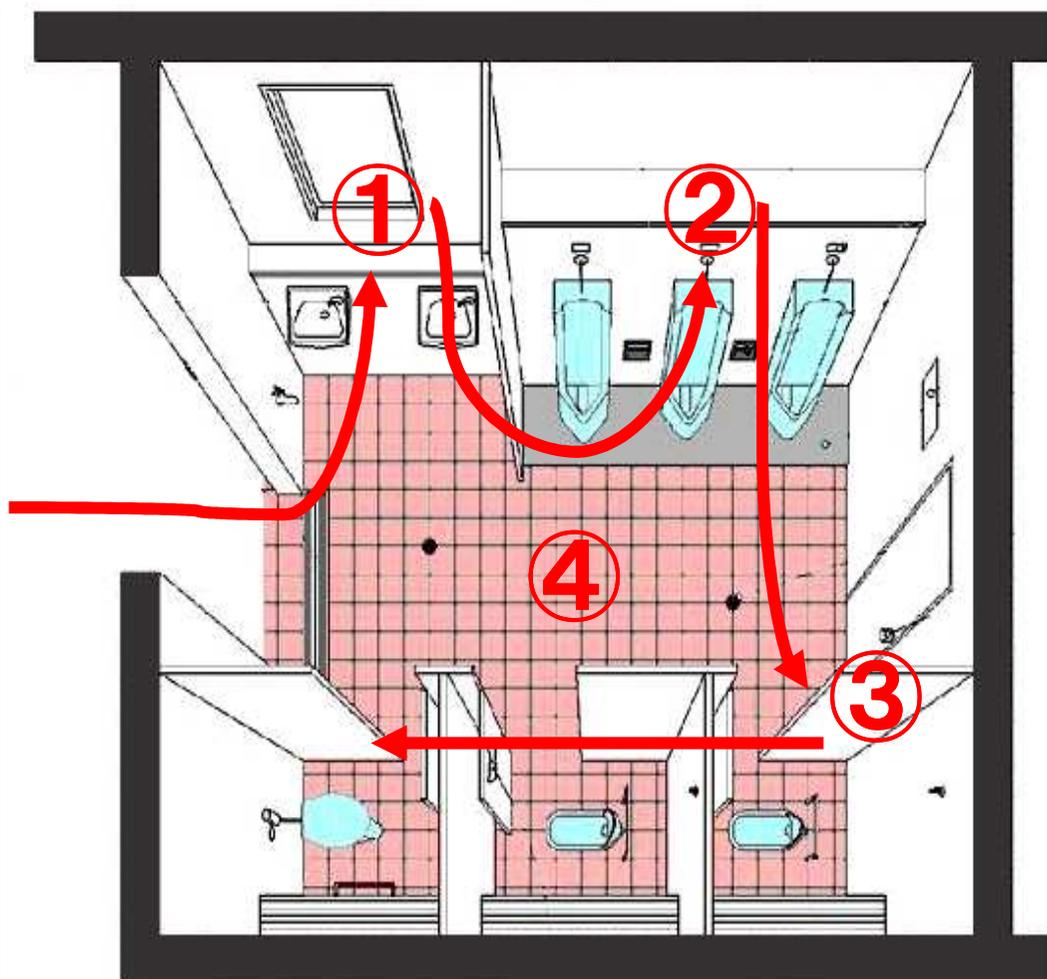
外来トイレの使用人数調査（参考）





清掃順序

	エリア・作業	図表
1	ゴミの収集	全
2	備品の補充	全
3	鏡・手洗い台エリア	①
4	小便器エリア	②
5	大便器ブース	③
6	床拭きあげ	④



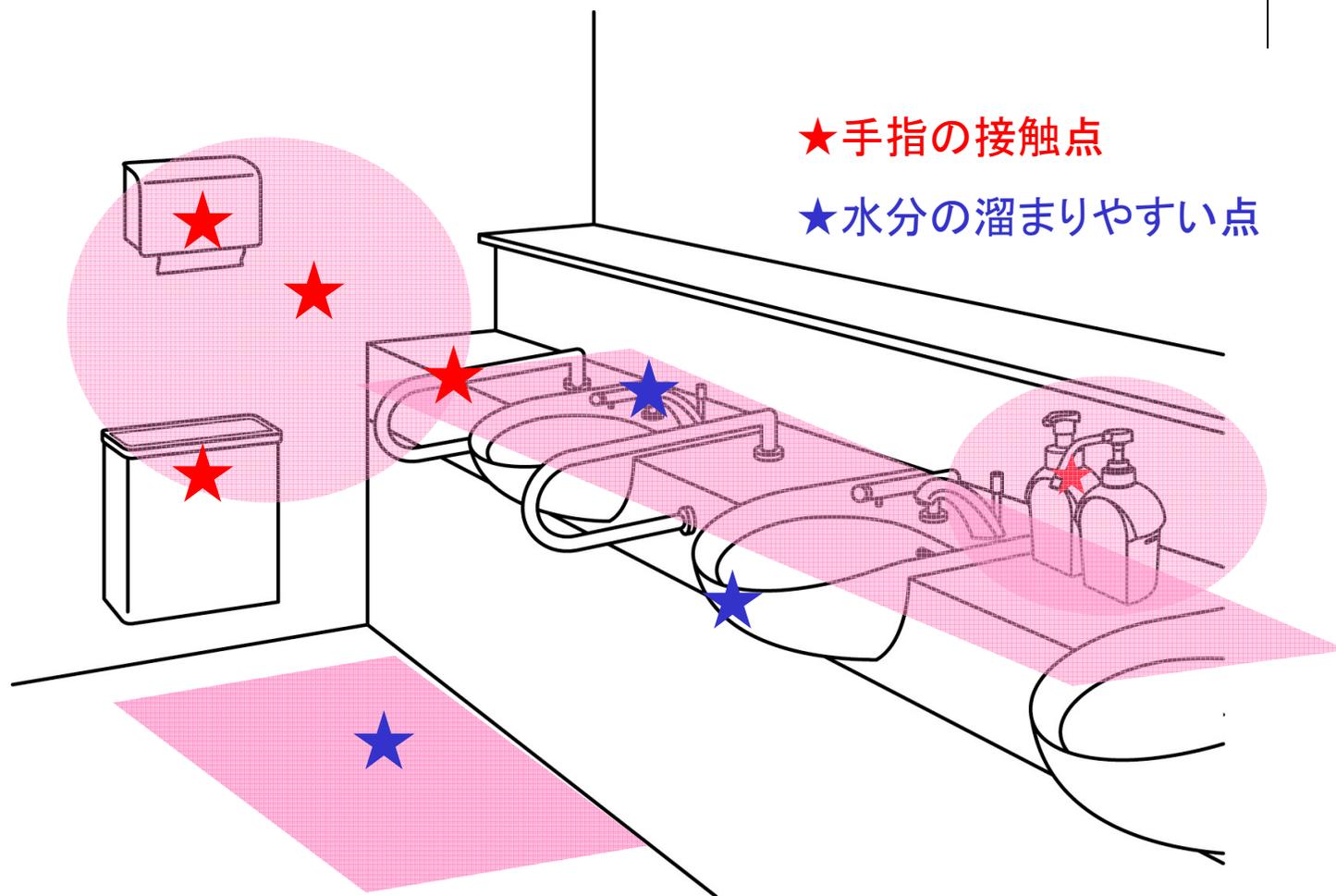


清掃作業の基本動作

原則	理由
上から下へ	ホコリや水の落下とともに細菌が拡散するのを防ぐため ※トイレでは腰高(床上80cm)以下に、汚物による汚染が激しい
奥から手前(退出側)へ	奥＝隅々にはホコリ、汚れが堆積しやすいため
きれいな箇所から汚れた箇所へ	汚染(感染リスク)を拡散させないため ※トイレでは腰高(床上80cm)を境界線として上下で汚染度を分ける事が望ましい ※手指が接触する点は最もきれいな箇所として扱う
1方向拭き	モップやクロスが一度掻き取った汚れを、表面に戻さない(再汚染しない)ため

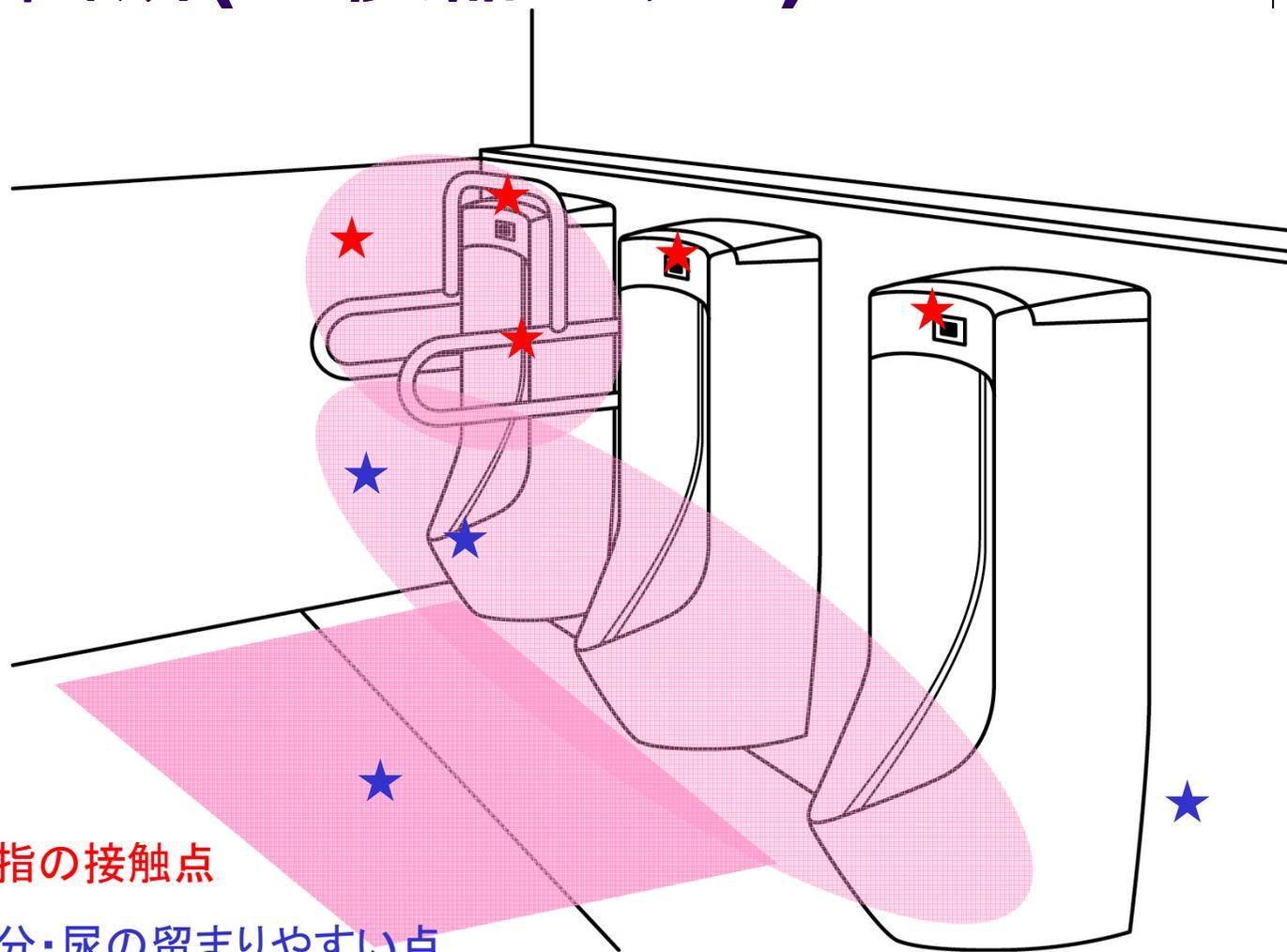


汚染箇所(手洗いエリア)





汚染箇所(小便器エリア)



★手指の接触点

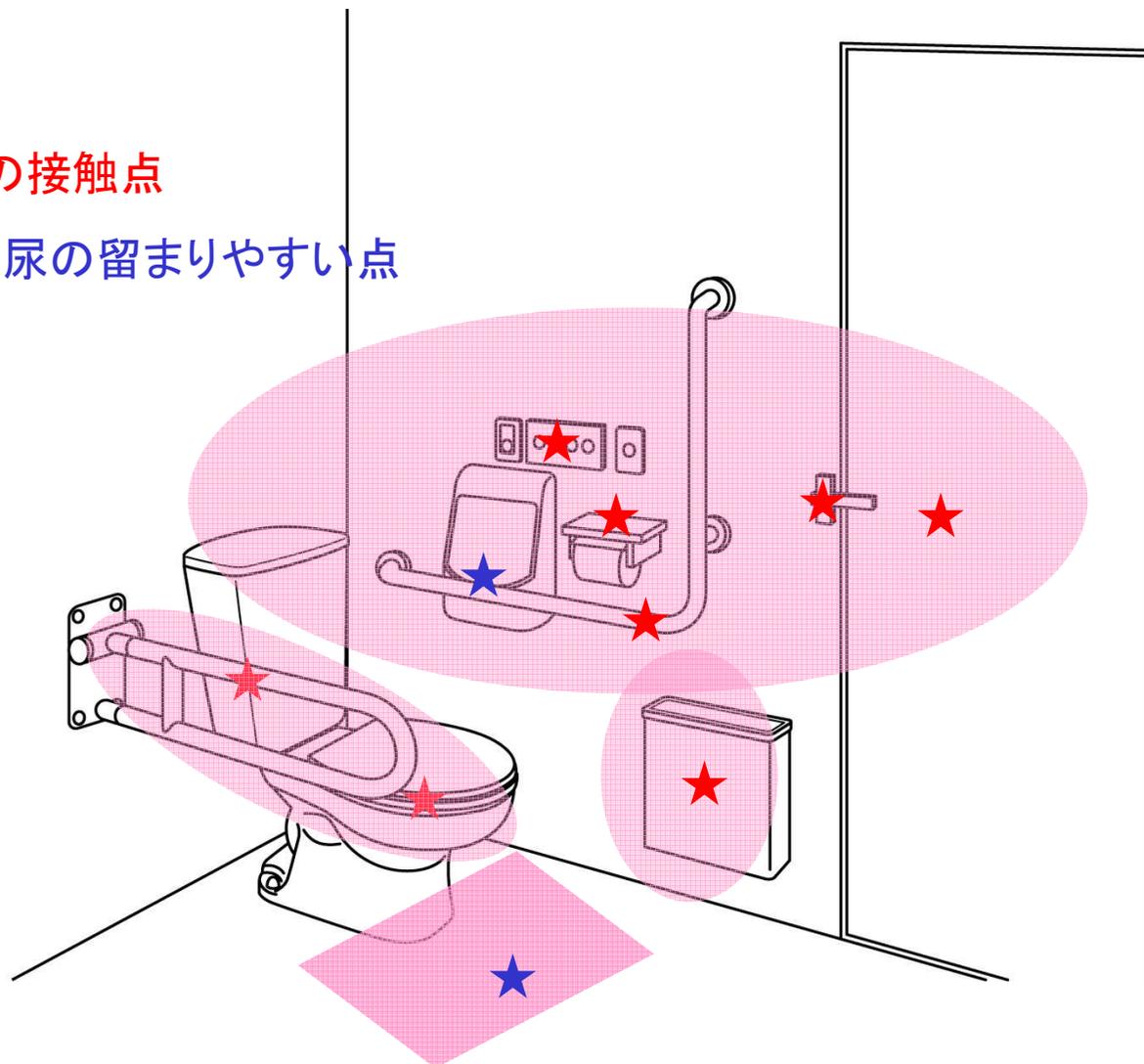
★水分・尿の溜まりやすい点

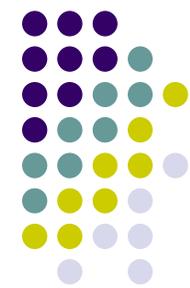


汚染箇所(大便器ブース)

★手指の接触点

★水分・尿の溜まりやすい点





個別マニュアル(例)

- 現場に合わせ、作業者に理解しやすい形で作成しましょう

トイレ清掃(巡回清掃)

●作業のポイント

- ためる前に汚れを除去し、不足資材を補充する
- 使用を妨げないように要領よく、手早く仕上げる
- 不具合などあれば、すぐに責任者へ報告する

作業	午前 4回巡回 午後 2回巡回	作業	1分 1ブース 2分 2ブース 3分 3ブース
----	--------------------	----	-------------------------------

1

トイレルーム全体を見回し、物を手入れすべきか判断します

2

床面を洗浄する場合は手袋をします。

チェック項目

<input checked="" type="checkbox"/>	各便器の汚れ、臭い 汚物付着などで便器内外が汚れている場合は、専用ウエス【赤】でふき取る。 ※ウエス【赤】は他の場所には使用しない
<input checked="" type="checkbox"/>	壁の汚れ、臭い、ゴミ 汚物がこぼれたり付着していたら、固く絞った専用モップで拭き上げる。 ※モップは他の場所には使用しない
<input checked="" type="checkbox"/>	ペーパー類の補充 1/3以下であれば交換。交換した物は廃棄用トイレにて使用する。
<input checked="" type="checkbox"/>	洗面台、お手洗い器等・ゴミ箱の清掃 汚れている場合は専用ウエス【青】で拭き上げ、お手洗い器のボタンや周辺にも水漬を落とさない。 ※拭き上げは洗面台→ゴミ箱の順で行う
<input checked="" type="checkbox"/>	仕上げ 目・カマ・壁・手すり・天井・お手洗い器など 汚れている場合は専用ウエス【青】で拭き取り、アルコールグスターで仕上げ拭きを行う。 ※カマ・手すりは1ブース毎に取替え、他の場所には使用しない

外来トイレ 朝清掃手順

1	フロアサイン設置 ※転倒事故防止のため、床が乾いたらフロアサインを	8	便器洗浄
2	高所の除菌 ※動き回すのではなくホコリを吸着する道具を使用	9	便器周り拭き
3	床面除菌	10	鏡拭き
4	便器へ トイレクリーナー散布	11	洗面台拭き
5	便器周りへ 除菌クリーナー散布	12	備品表面拭き ※ハンコ・ペーパー、洗剤の容器、手すり等は仕上げに拭き拭き
6	ペーパー補充	13	壁面拭き
7	ハンドソープ補充	14	床面拭き

清掃は **高所→低所へ、奥→手前へ**。
きれいな箇所→汚れの多い箇所の順で実施
ウエスは **往復せず一方向へ拭き**、途中で **拭き面を変えます**。
「手洗い」で作業完了!



清掃現場



IC Team

「環境衛生」の向上は チームワークが鍵



清掃(管理者)



施設側(業務部)

※ICT等のチームメンバーに情報をWEBで共有する仕組みについては、
ディバーシー株式会社までお問合せ下さい。



P-D-S-Aサイクルをまわそう！



●初期計画は荒削りでも、1、2回とサイクルが回るうちに精度が上がる

●ICTと協働することで推進力アップ

●Study段階では、広く関係者の意見交換が重要

●定期チェックには第三者評価を取りいれると客観性を保ちやすい

※Study(分析・学び)段階で、環境衛生の第三者評価や改善アドバイスをご希望の場合は、ディバーシー株式会社までお問合せ下さい。